

厚生労働大臣 殿

学校法人 産業医科大学  
理事長 海野 孝

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に  
関して報告します。

記

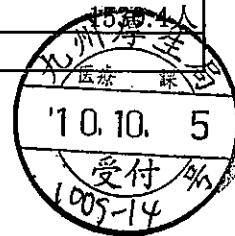
- 1. 高度の医療の提供の実績→別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績→別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績  

研修医の人数	170	人
--------	-----	---
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	335人	0.4人	335.4人	看護業務補助	66人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	0人	10人	理学療法士	11人	臨床 臨床検査技師	45人
薬 剤 師	30人	0人	30人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	2人	0人	2人	視能訓練士	3人	検査 その他	0人
助 産 師	14人	0人	14人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	572人	5.7人	577.7人	臨床工学技士	8人	医療社会事業従事者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	76人
管理栄養士	3人	0人	3人	診療放射線技師	31人	そ の 他 の 職 員	20人

- 8. 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科及び小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	531.6人	4.3人	535.9人
1日当たり平均外来患者数	1480.6人	49.8人	1530.4人
1日当たり平均調剤数	1017.7剤		



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱い患者数
インプラント義歯	0人
鏡視下肩峰下控徐圧術	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	2人
超音波骨折治療法	0人
膀胱水圧拡張術	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	6人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	6人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	PCRを用いたニューモシスチス肺炎の診断(第1内科)	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 PCR法を用い、患者の誘発喀痰検体から抽出した微量のDNAを増幅し、Pneumocystis jiroveci DNAの検出に基づく診断を行う技術である。 特に膠原病・リウマチの治療に伴う日和見感染症としてのニューモシスチス肺炎を早期に診断して治療開始することにより、予後の著しい向上を得ている。			
医療技術名	持続皮下血糖測定システム(CGMS)を用いた血糖測定(第1内科)	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 糖尿病患者腹部に刺したセンサーが間質液から5分毎に糖濃度の平均値によって血糖値を算出する技術である。1つのセンサーで最大3日間連続測定が可能で、機器をはずしてPCにデータを送ると、蓄積した測定データからその日の血糖推移のグラフが作成できる。これによりインスリン療法、経口剤を用いた血糖コントロールは言うまでもなく血糖推移のグラフを見せることで患者教育においても著しい効果を発揮している。			
医療技術名	自己免疫疾患に対する免疫吸着療法(第1内科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 抗DNA抗体をはじめとする自己抗体高値の膠原病(SLE、MCTD)等に関して自己抗体に特異的な吸着カラムを用いた体外循環により自己抗体の除去を行なう。 既に産生された自己抗体の物理的除去は、免疫抑制剤との併用により高い効果をもたらしている。			
医療技術名	敗血症性ショックに対するポリミキシン吸着療法(第1内科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 敗血症性ショック(エンドトキシンショック)の患者に対して、エンドトキシンに特異的な吸着カラムを用いた体外循環により、エンドトキシンの除去を行い、敗血症性ショック、呼吸器障害を改善させる。			
医療技術名	既存治療抵抗性SLEに対する抗CD20抗体療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 既存治療抵抗性全身性エリテマトーデスに対して抗CD20抗体リツキシマブによるB細胞除去を行い、非常に高い疾患活動性を抑制し臓器障害を回避しえた。			
医療技術名	リンパ球表面P糖蛋白発現解析による自己免疫疾患のオーダーメイド治療(第1内科)	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 自己免疫疾患の疾患活動性、治療抵抗性を末梢血リンパ球表面上のP糖蛋白の発現により評価し、治療方針の決定に応用するものである。B、Tリンパ球にわけて評価することにより、免疫抑制療法の選択を行いオーダーメイド治療に役立てている。			
医療技術名	自己免疫疾患による活動性間質性肺炎に対するウリナスタチンパルス療法(第1内科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 強力な免疫抑制療法の継続が困難な自己免疫疾患に伴う活動性間質性肺炎に対して、ウリナスタチンのパルス療法を施行し、感染の誘発などを認めることなく、症状、CT所見などの改善を得ている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	16SrRNA遺伝子を用いた網羅的な細菌叢解析(呼吸器内科)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 細菌のみが保有する16SrDNA遺伝子を用いて、検体中の細菌DNAのクローンライブラリーを作製し、それぞれの塩基配列を決定することにより、検体中にどんな細菌がどれくらい存在するかを把握可能であり、感染症診療に役立つ。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法(神経・精神科)	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要 主に難治性うつ病患者を対象に中央手術室において全麻下で電気けいれんを施行する。			
医療技術名	集団精神療法(神経・精神科)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 うつ病及び統合失調症者に対する心理教育			
医療技術名	非血縁臍帯血移植(小児科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 難治性白血病に対する臍帯血バンクを利用した臍帯血移植			
医療技術名	血縁骨髓移植(小児科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 難治性白血病や難治性の悪性固形腫瘍に対する血縁間での骨髓移植			
医療技術名	自家末梢血造血幹細胞移植(小児科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児がんに対する大量化学療法施行時の併用造血幹細胞移植			
医療技術名	遊離空腸食道再建術(第1外科)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 喉頭、頸部食道全摘後に空腸片を採取して、頸部血管と空腸部静脈を吻合(血行再建)し、咽頭空腸、空腸食道を吻合する。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	単孔式内視鏡手術(第1外科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 スコープや鉗子などの手術器具を1ヶ所の切開創から挿入して行う術式。整容上の利点などがあり、胆のう摘出術の他、総胆管切石術、肝部分切除術、胃局所切除術等を行っている。			
医療技術名	非小細胞肺癌に対するMAGE-A3がん免疫療法(第2外科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌患者を対象とした術後補助療法としてのAS15アジュバント添加、MAGE-A3がん免疫療法剤の有効性を評価するための、二重盲検、無作為化、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験として施行している。MAGE-A3がん免疫療法により肺癌術後の再発の抑制を期待している。			
医療技術名	慢性疼痛疾患に対する脊髄電気刺激療法(脳神経外科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 中枢神経疾患にともなう慢性の体幹及び四肢の疼痛に対して脊髄硬膜外に電極を設置して疼痛を電気刺激により治療する。			
医療技術名	下肢症性に対するバクロフェン注入療法(脳神経外科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 種々の中枢性疾患により四肢の症性が強くなり、関節拘縮などにより運動機能障害をきたす。これらの状態に対して、脊髄髄腔内にバクロフェンを体内に埋め込んだ微量注入ポンプからバクロフェンを注入して治療する。			
医療技術名	脳腫瘍手術における脳機能マッピング(脳神経外科)	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要 脳腫瘍(突発性)はあらゆる脳の部位に発生するが、運動、言語などの領域に発生すると摘出する際、重大な後遺症を残す。術中に運動野や言語野を電気刺激してこれらの部位をさけて摘出を行うことで術後の障害を防ぐ。			
医療技術名	術中腫瘍の蛍光診断(脳神経外科)	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍、特に神経膠腫の予後はどこまで手術中に摘出できたかに左右される。腫瘍細胞に術前5・ALA(蛍光色素を発生する薬物)を投与し、術中に光をあてることによって発生する蛍光で残存腫瘍をできる限り取り除く。			
医療技術名	再燃前立腺癌に対するPaclitaxelを中心とした抗癌化学療法(泌尿器科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 従来、内分泌療法施行後の再燃前立腺癌症例には、確立された有効な抗癌化学療法はなく、我々は5-FU+Cisplatin+Merhotroxateの治療を行ってきたが、満足すべき結果は得られてはいなかった。今回Paclitaxel(Taxol)+Carboplation+VP16抗癌化学療法及び内分泌療法剤であるEstracytの内服療法を併用することにより、近接結果においては、良好な結果を得ており、これらの症例は経過観察中となっている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	羊膜を使用した緑内障手術(濾過手術)(眼科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 緑内障手術(濾過手術)の際に、羊膜を強膜上に縫着して、創の癒着を防ぐことで手術成績の向上を図る。			
医療技術名	突発性難聴(難病)の鼓室内ステロイド注入(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 突発性難聴は主に、一側性の急激な高度感音性難聴を来す疾患であり、時にめまいをともなう。その原因についていまだ定説はない。しかし、原因がいずれにしても内耳の酸素摂取量を増加させることは障害された内示の代謝の改善、組織の修復等に寄与すると考えられる。本院においては、上記疾患に対し、鼓室内ステロイド注入を施行して、好成績をおさめている。			
医療技術名	睡眠時無呼吸症候群の診断と治療(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 睡眠時無呼吸症候群は最近一層注目されてきた疾患である。当院では関連検査機器を整備して、この疾患の診断と治療を行っている。睡眠時無呼吸症候群の診断にあたってはその重症度と原因部位診断について留意して検査を行い加療の指針としている。			
医療技術名	選択的道注法による抗癌剤投与療法(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 癌組織へ選択的に且つ高濃度の抗癌剤を投与する選択的道注入法では、殺腫瘍効果の増強と副作用の軽減が期待できる。頭頸部領域では主に上顎癌や舌・口腔底癌において、この選択的道注法の使用が考えられる。本院においては、浅側頭動脈より逆行性にチューブを挿入し、上顎癌と舌癌においてこの選択的道注法を行っている。			
医療技術名	骨髄移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、健常な骨髄を移植することにて治療を目指す。			
医療技術名	末梢血幹細胞移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、末梢血より得られた造血幹細胞を移植することにて治療を目指す。			
医療技術名	臍帯血移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、臍帯血を移植し、臍帯血中の造血幹細胞及び免疫細胞にて治療を目指す。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	金属材料を用いた脊柱再建固定術(整形外科)	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要			
<p>脊椎の外傷や脊椎の腫瘍により脊椎が不安定になり、脊椎の障害(下肢麻痺)や耐え難い疼痛などを発症する。これらの患者に対しては金属材料を用いて強固な内固定をすることにより、疼痛や麻痺が改善され、しかも術後早期に離床が可能となる。</p>			
医療技術名	頚椎前方固定術、頚椎椎弓形成術(整形外科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
<p>頚椎症性脊髄症に対して、我々は頚椎椎弓形成術(椎弓を両開きとして、椎弓を温存し、脊柱管を拡大する)を中心とする後方除圧を目的とした後方進入法と、前方固定術(椎間板切除と骨棘切除し、椎体間を固定する)を中心とした前方除圧を目的とした前方進入法を行っている。</p>			
医療技術名	術中ナビゲーションを用いた脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
<p>リウマチや脳性麻痺患者などに生じた高度な頚椎不安定症に対し、固定力の強固な椎弓根や椎間関節スクリューを用いた後方固定術を行っているが、スクリュー刺入には危険を伴い高度な技術を要する。我々はより安全にスクリュー刺入を行うために、術中ナビゲーションを使用している。また、高度な靭帯骨化(後縦靭帯や黄色靭帯)の除圧操作においてもナビゲーションを用いてより正確により安全に手術操作を実施している。</p>			
医療技術名	内視鏡を用いた低侵襲脊椎手術(精液外科)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
<p>腰椎椎間板ヘルニアに対し、我々は内視鏡を用いたヘルニア摘出術を行っている。従来のヘルニア手術に比べ侵襲が少なく、術後回復も早い。また、内視鏡を用いることで、より正確な手術操作が可能となる。</p>			
医療技術名	人工股関節(セメントレス)、骨盤骨切り(RAO)(整形外科)	取扱患者数	87人
当該医療技術の概要			
<p>社会の高齢化に伴い、関節の退行変性による変形性股関節症症例が増加してきている。我々は、本症に対してセメントレス人工股関節を行っている。本邦では、二次性の変形性股関節症が多く、特に臼蓋形成不全によるものが、約80%を占める。臼蓋形成不全に対しては、骨盤回転骨切り(RAO)を行っている。</p>			
医療技術名	マイクロサージャリー、手関節鏡手術(整形外科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
<p>外傷による手指の神経、血管損傷、皮膚欠損に対して顕微鏡下での縫合術を行っている。手関節内の三角線維軟骨損傷や滑膜炎に対しては、手関節鏡視下に処置を行い、最小侵襲による確実な処置で早期の社会復帰を目指している。</p>			
医療技術名	前十字靭帯再建術(整形外科)	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要			
<p>近年、スポーツ活動が盛んになるに従い、膝関節の外傷も増加している。靭帯損傷の中でも前十字靭帯損傷は頻度が高く、放置すればスポーツ活動に支障をきたし変形性関節症も進行する。この前十字靭帯損傷に対し我々は小さな創で大きな可動域と安定性を獲得すべく半腱様筋、薄筋腱を用いた鏡視下靭帯再建術を行っている。</p>			



(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	股関節鏡視下手術(精液外科)	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 Femoroacetabular impingement syndromeと呼ばれる股関節における臼蓋と大腿骨頭～頸部にかけてのインピンジメントは変形性股関節症を惹起しうる病態と考えられている。これに対し股関節鏡視下にインピンジメントを解除するため、臼蓋および大腿骨頭部のトリミング、股関節唇の修復を行なっている。			
医療技術名	肩関節鏡視下関節制動術(整形外科)	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 反復性肩関節脱臼の患者は肩関節の関節唇が損傷され、また関節包が弛緩している。これらを鏡視下に修復することで関節の制動を獲得する手術を関節鏡視下に行っている。			
医療技術名	肩関節鏡視下腱板修復術(整形外科)	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 肩関節腱板損傷に対して従来はMcLaulin法などのOpenでの修復術が行われていたが、当院では肩関節周囲筋の侵襲を軽減でき、スムーズな後療法を実現するために関節鏡視下にアンカーを用いて修復術を行っている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	79人	・膿疱性乾癬	4人
・多発性硬化症	36人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	81人	・原発性胆汁性肝硬変	28人
・全身性エリテマトーデス	267人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	6人	・特発性大腿骨頭壊死症	27人
・再生不良性貧血	39人	・混合性結合組織病	49人
・サルコイドーシス	53人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	17人	・特発性間質性肺炎	17人
・魚皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	157人	・網膜色素変性症	22人
・特発性血小板減少性紫斑病	40人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	34人	・原発性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	107人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	4人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	19人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	3人
・脊髄小脳変性症	53人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・クローン病	50人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症	0人
・悪性関節リウマチ	49人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患	178人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	45人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	21人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	14人	・リンパ脈管筋腫症	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	22人	・重症多形滲出性紅斑	0人
・多系統萎縮症	14人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害	15人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	・
・画像診断ナビゲーション手術	・
・眼底三次元画像解析	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	・
・膀胱水圧拡張術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 33 例 / 部検 13.20%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

(平成21年度分)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究	田中 良哉	第1内科	21,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
関節リウマチの寛解導入体系化に関する研究	田中 良哉	第1内科	2,500,000 円	補 厚生労働科学研究費委
膠原病の生命予後規定因子である肺合併症の診断及び治療法の再評価と新規開発に関する研究	田中 良哉	第1内科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	田中 良哉	第1内科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
免疫アレルギー疾患の予防・治療法の開発及び確立に関する臨床研究、関節リウマチ患者の生命予後からみた至適医療の確立に関する臨床研究	田中 良哉	第1内科	3,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科	2,200,000 円	補 厚生労働科学研究費委
膠原病、自己免疫疾患の重複症候群を中心とした実態把握と解析に向けた試料収集	田中 良哉	第1内科	800,000 円	補 厚生労働科学研究費委
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	田中 良哉	第1内科	1,500,000 円	補 厚生労働科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
デンドライトを起点とするストレスに対するサーベイランスとシグナルネットワーク形成	田中 良哉	第1内科	9,300,000 円	補 日本学術振興会科学研究費 委
膠原病における抗転写因子抗体の網羅的解析を用いた新規治療戦略の開発	齋藤 和義	第1内科	1,200,000 円	補 日本学術振興会科学研究費 委
関節リウマチにおける生物学的製剤の長期安全性と副作用リスク因子に関する疫学研究	齋藤 和義	第1内科	300,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費 委
老年期骨粗鬆症治療戦略確立の探索的研究～骨形成促進作用を持つ新規骨粗鬆症薬～	岡田 洋右	第1内科	1,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費 委
関節リウマチ患者単球系細胞に対するJAK3阻害剤の新規薬効解明と投薬法の開発	山岡 邦宏	第1内科	1,600,000 円	補 日本学術振興会科学研究費 委
樹状細胞-T細胞相互作用における神経伝達物質の役割の解明とRA治療の新戦略	中野 和久	第1内科	1,500,000 円	補 文部科学科学研究費 委
全身性エリテマトーデスにおけるJak3を標的とした治療戦略の確立	平田 信太郎	第1内科	1,600,000 円	補 文部科学科学研究費 委
日本人における動脈硬化性大動脈弁膜疾患の発症・進展予防に関する研究	尾辻 豊	第2内科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費 委
僧帽弁腱索断裂症例における非断裂部テザリングによる逆流の憎悪	尾辻 豊	第2内科	2,400,000 円	補 日本学術振興会科学研究費 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
実験的肺動脈性肺高血圧症の細胞外スーパーオキシド・デイスムターゼによる抑制	太崎 博美	第2内科	300,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
動脈硬化進展退縮におけるCX3CL1/CX3CR1の役割	田中 正哉	第2内科	700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
心筋梗塞に対する次世代治療戦略の開発	中田 靖	第2内科	1,700,000 円	補 文部科学科学研究費委
特発性間質性肺炎患者における生体試料等の収集に関する研究	迎 寛	呼吸器病態学	4,500,000 円	補 厚生労働科学研究費委
特発性間質性肺炎患者における生体試料等の収集に関する研究	矢寺 和博	呼吸器病態学	500,000 円	補 厚生労働科学研究費委
デフェンシンを新しい抗菌薬として開発するための基礎的研究	迎 寛	呼吸器病態学	1,100,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
オステオポンチン重合体の間質性肺炎の病態形成における役割に関する研究	森本 泰夫	呼吸器病態学	100,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
ナノ粒子による肺障害の解明と有害性評価システムの構築	森本 泰夫	呼吸器病態学	1,400,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
難治性痒疾患に関する調査研究	木原 康之	第3内科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
肝細胞マロリー体の形成、分解機構とその細胞生物学的意義	原田 大	第3内科	900,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
慢性膵炎における新しい治療法・予防法の検討(細胞内活性酵素種抑制からの検討)	浅海 洋	第3内科	1,600,000 円	補 文部科学科学研究費委
反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立	辻 貞俊	神経内科	800,000 円	補 厚生労働科学研究費委
難治性神経因性疼痛に対する大脳一次運動野刺激の他施設共同研究: 継続的反复的経頭蓋磁気刺激による効果判定とメカニズム解析	魚住 武則	神経内科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
ジストニアの治療法の確立・治療指針策定のための調査研究	辻 貞俊	神経内科	1,000,000 円	補 文部科学科学研究費委
経頭蓋磁気刺激法を用いた神経因性疼痛治療法の開発	由比 友顕	神経内科	700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
悪液質における食欲不振に対する六君子湯の有効性及び作用機序の検討	米良 貴嗣	神経内科	1,900,000 円	補 文部科学科学研究費委
てんかんに対する新たな治療法開設と標準化に関する研究	辻 貞俊	神経内科	6,500,000 円	補 厚労省国立高度専門医療センター 委
リワークプログラムを中心とするうつ病の早期発見から職場復帰に至る包括治療に関する研究	中村 純	神経・精神科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
多様化した気分障害患者に関する画像・分子薬理学的研究	中村 純	神経・精神科	3,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
血液型一酸化窒素合成酵素遺伝子多型のうつ病の病態への影響	吉村 玲児	神経・精神科	900,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
タバコ (ニコチン) 依存との関係からみた喫煙行動に関する分子遺伝的研究	坂田 深一	神経・精神科	500,000 円	補 文部科学科学研究費委
アルコール依存症の病態と治療法の開発に関する研究	中村 純	神経・精神科	550,000 円	補 厚生労働省国立高度専門医療センター 委
気分障害の治療システムの開発と検証に関する研究	中村 純	神経・精神科	1,000,000 円	補 厚生労働省国立高度専門医療センター 委
気分障害の病態解明と診断治療法の開発に関する研究	吉村 玲児	神経・精神科	2,500,000 円	補 厚生労働省国立高度専門医療センター 委
精神・神経疾患に関するバイオマーカーの探索及び診断・治療法の開発に関する研究	吉村 玲児	神経・精神科	1,800,000 円	補 厚生労働省国立高度専門医療センター 委
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	楠原 浩一	小児科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
小児期急性脳症の早期診断および予後予測に関する多施設共同研究	楠原 浩一	小児科	2,200,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
メタボリック症候群発症の背景としての脳脂肪細胞系の生後発達とその異常に関する検討	山本 幸代	小児科	1,100,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
全一酸化窒素合成酵素ノックアウトマウスにおける腎間質線維機序の解明	森貞 直哉	小児科	600,000 円	補 文部科学科学研究費委
胎児新生児期の栄養環境がもたらす活性酸素・NOストレスと生活習慣病発症との関連性	山本 幸代	小児科	400,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
胎児期・出生後のストレスが脳内摂食調節機構に与える影響に関する研究	久保 和泰	小児科	1,300,000 円	補 文部科学科学研究費委
顕微鏡感覚で使え、安心・安全を提供する手術用立体内視鏡システムの試作開発と臨床応用	西澤 茂	脳神経外科	4,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
クモ膜下出血後の脳血管攣縮に対する蛋白リン酸化酵素Cをターゲットにした創薬の研究	西澤 茂	脳神経外科	700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
悪性腫瘍における光感受性物質の放射線感受性増強効果の検討	山本 淳考	脳神経外科	800,000 円	補 文部科学科学研究費委
低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究	西澤 茂	脳神経外科	4,500,000 円	補 文部科学省 (J S T) 委託事業 委
腫瘍の免疫逃避機構の解明と癌免疫療法への応用	中村 利孝	整形外科	3,700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（円）	補助元及び委託元
骨・骨髄損傷後の修復過程における骨と血管のシグナルネットワークの解明	酒井 昭典	整形外科	1,100,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
遺伝子改変動物を用いた外傷および関節炎における疼痛・ストレス反応の分子基盤の解明	大西 英生	整形外科	2,100,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
時間特異的及び組織・細胞特異的ノックアウトマウスを用いた骨再生過程の解明	中村 英一郎	整形外科	700,000 円	補 文部科学科学研究費委
切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究	山口 幸二	第1外科	500,000 円	補 厚生労働科学研究費委
イノシトール3リン酸受容体発現と大腸癌における転移、術前化学療法との関連について	山口 幸二	第2外科	500,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
イノシトール3リン酸受容体発現と大腸癌における転移、術前化学療法との関連について	柴尾 和徳	第1外科	700,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
ヒト胃癌におけるイノシトール3リン酸受容体発現の意義とその重要性	柴尾 和徳	第1外科	1,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
腫瘍の免疫逃避機構の解明と癌免疫療法への応用	安元 公正	第2外科	5,900,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
肺癌の転移進展に伴う細胞性免疫および液性免疫応答の解析	竹之山 光広	第2外科	1,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
肺癌浸潤B細胞が認識する腫瘍抗原の抗体療法への応用	水上 真紀子	第2外科	700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
生物学的特性からみた食道扁平上皮癌の新しい治療方針の確立	花桐 武志	第2外科	700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
悪性胸膜中皮腫に対する特異的免疫療法の構築	宗 哲哉	第2外科	1,800,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
石棉関連肺癌に対する腫瘍抗原の探索と診断及び治療への応用	安田 学	第2外科	1,200,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
肺癌における発癌過程の腫瘍不均一形成に関する因子の解析	浦本 秀隆	第2外科	1,500,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
悪性胸膜中皮腫の胸腔内発育、進展形式の解明	安元 公正	第2外科	1,400,000 円	補 文部科学科学研究費委
癌精巢抗原KK-LC-1の新規エピトープの同定と養子免疫療法への応用	重松 義紀	第2外科	1,050,000 円	補 文部科学科学研究費委
肺癌に発現するエストロゲン受容体のEGFRとの機能的関連と分子標的の可能性	能勢 直弘	第2外科	1,100,000 円	補 文部科学科学研究費委
肺癌特異的 $\alpha\beta$ T細胞受容体遺伝子を導入した $\gamma\delta$ T細胞を用いた肺癌のCTL治療	安元 公正	第2外科	1,000,000,000 円	補 文部科学科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
肺癌特異的 $\alpha\beta$ T細胞受容体遺伝子を導入した $\gamma\sigma$ T細胞を用いた肺癌のCTL治療	花桐 武志	第2外科	300,000,000 円	補 文部科学科学研究費委
肺癌特異的 $\alpha\beta$ T細胞受容体遺伝子を導入した $\gamma\sigma$ T細胞を用いた肺癌のCTL治療	竹之山 光広	第2外科	200,000,000 円	補 文部科学科学研究費委
複合ワクチンの戦略的開発研究	安元 公正	第2外科	30,000,000 円	補 先端医療開発特区設備整備事業補助金委
金属アレルギーの克服へ向けた効果的診断・予防治療法の開発研究	戸倉 新樹	皮膚科	2,200,000 円	補 厚生労働科学研究費委
アトピー性皮膚炎の予防・治療法の開発及び確立に関する研究	戸倉 新樹	皮膚科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
難治性慢性痒疹・皮膚癢痒症の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	戸倉 新樹	皮膚科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
かゆみ過敏に関わるセマフォリン3a産生の表皮と真皮での相反性	戸倉 新樹	皮膚科	1,300,000 円	補 文部科学科学研究費委
皮膚T細胞悪性リンパ腫のAID関連microRNAによるモニタリングシステムの構築	戸倉 新樹	皮膚科	4,200,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
紫外線照射による皮膚樹状細胞を介した免疫抑制機序の解明	吉木 竜太郎	皮膚科	1,700,000 円	補 文部科学科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（円）	補助元及び委託元
脂質メディエーターによる好酸球の皮膚浸潤メカニズムとその生理的役割の解明	杉田 和成	皮膚科	1,500,000 円	補 文部科学科学研究費委
エクリン汗腺のlabel retaining細胞の同定と汗腺の再生治療の開発	中村 元信	皮膚科	1,400,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
性感染症に関する予防、治癒体系化に関する研究	松本 哲朗	泌尿器科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
小眼球による視覚障害の原因を特定するための疫学調査と診断・治療基準の創成	近藤 寛之	眼科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
網膜血管形成不全疾患の遺伝子解析	近藤 寛之	眼科	100,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
緑内障の発症機序に関する分子生物学的研究	田原 昭彦	眼科	1,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
光学的視覚刺激装置の開発と調節緊張緩和と近視の予防に関する研究	岩崎 常人	眼科	1,100,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
インドメタシンによる鼻茸縮小機序の解明とラミニンの関与	宇高 毅	耳鼻咽喉科	600,000 円	補 文部科学科学研究費委
鼻腔における温度センサーTRPチャンネルの発現と機能の検討	柴田 美雅	耳鼻咽喉科	1,700,000 円	補 文部科学科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
環境汚染物質が胎児発育に与える影響の研究	柴田 英治	産婦人科	1,300,000 円	補 文部科学科学研究費委
3テラスMRSを用いた脳内GABAの測定により夜勤従事者の疲労を客観的に評価する	興梠 征典	放射線科	800,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
温熱療法と高気圧酸素治療の2者併用による化学療法、放射線治療の増感効果の検討	大栗 隆行	放射線科	600,000 円	補 文部科学科学研究費委
神経因性疼痛モデルにおけるグリシン及びGABAトランスポーター阻害薬の鎮痛効果	原 幸治	麻酔科	600,000 円	補 文部科学科学研究費委
選択的Naチャンネル阻害薬の開発を目指した、吸入麻酔薬・鎮痛薬の作用機序解析	堀下 貴文	麻酔科	1,300,000 円	補 文部科学科学研究費委
ラット疼痛モデルを用いたポリフェノールの鎮痛作用に関する研究	中村 元洋	麻酔科	1,400,000 円	補 文部科学科学研究費委
高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究	蜂須賀 研二	リハビリテーション科	2,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
スモンに関する調査研究	蜂須賀 研二	リハビリテーション科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委
シャルコー・マリー・トゥース病の診断・治療・ケアに関する研究	蜂須賀 研二	リハビリテーション科	1,000,000 円	補 厚生労働科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額（円）	補助元及び委託元
カーボン長下肢装具がポリオ罹患患者の歩行効率を改善する要因の研究	蜂須賀 研二	リハビリテーション科	5,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
ロボット歩行訓練時における脊髄損傷者の脳賦活	和田 太	リハビリテーション科	1,200,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
上肢訓練ロボットを用いた訓練が脳賦活に及ぼす影響	小田 太士	リハビリテーション科	1,500,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
脳卒中片麻痺上肢に対する経頭蓋直流刺激下ロボット補助訓練の効果	佐伯 寛	リハビリテーション科	2,100,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
簡便な懸垂式歩行訓練装置の有用性に関する検討	牧野 健一郎	リハビリテーション科	500,000 円	補 文部科学科学研究費委
脳卒中後うつに対する塩酸パロキセチン投与が長期的なADL, QOLに及ぼす影響	高橋 真紀	リハビリテーション科	500,000 円	補 文部科学科学研究費委
ユーリハビリ空間実現のための歩容情報センシングの研究開発	蜂須賀 研二	リハビリテーション科	678,000 円	補 総務省委託事業委
慢性腎疾患におけるインテグリンの病態生理学的役割の解明と制御による治療への応用	田村 雅仁	腎センター	700,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
動脈硬化血管における新しいヒスタミンの機能	笹栗 靖之	第2病理学	200,000,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (円)	補助元及び委託元
植物由来化合物のカテコールアミン神経機能と寿命に及ぼす影響	高橋 浩二郎	薬剤部	1,200,000 円	補 日本学術振興会科学研究費委
芦屋町における児童生徒の保健管理に関する調査	尾辻 豊	第2内科	1,000,000 円	補 芦屋町 委
早期糖尿病の進展抑制に関する無作為化比較臨床試験	原田 大	第3内科	50,000 円	補 日本糖尿病進展抑制研究会 委
「Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第Ⅲ相臨床試験	山口 幸二	第1外科	315,000 円	補 (財)先端医療振興財団 委
Stage III 結腸癌治癒切除に対する術後補助化学療法としてのUFT/LeucovorinとTS-1療法の第Ⅲ相比較臨床試験	山口 幸二	第1外科	105,000 円	補 (財)先端医療振興財団 委
静脈血栓症予防のための小型下肢運動補助ロボットの開発	岡本 好司	第1外科	325,000 円	補 (財)北九州産業学術推進機構 委
低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究	西澤 茂	脳神経外科	5,850,000 円	補 文部科学省 委
ユーリハビリ空間実現のための歩容情報センシングの研究開発	蜂須賀 研二	ハビリテーション	881,400 円	補 九州総合通信局 (総務省) 委



2 論文発表等の実績 (平成21年度実績)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Genes Cells 14 : 511-521 (2009年4月)	Intracellular galectin-9 activates inflammatory cytokines in monocytes.	Matsuura, A	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
Arthritis Rheum61 : 305-312 (2009年5月)	Pneumocystis jiroveci pneumonia in patients with rheumatoid arthritis treated with infliximab: a retrospective review and case-	Saito, K	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
日本臨床免疫学会会誌 32 : 85-91 (2009年5月)	Jak 阻害薬の抗リウマチ薬としての可能性とその作用機序	山岡 邦宏	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
Frontier in Rheumatology & Clinical Immunology. 3 : 88-92 (2009年5月)	RAにおけるチロシンキナーゼ阻害薬の役割	山岡 邦宏	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
日本臨床免疫学会会誌. 32 : 149-159 (2009年6月)	関節リウマチに対する新規生物学的製剤・低分子化合物.	齋藤 和義	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
J Vasc Res. 46 : 572-580 (2009年6月)	Advanced glycation end products induce calcification of vascular smooth muscle cells through RAGE/p38 MAPK.	Tanikawa, T	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
薬学雑誌 129 : 675-679 (2009年6月)	抗 CD20 抗体による自己免疫疾患の治療～基礎から臨床での新展開まで～	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
Rheumatology. 48 : 1012-1013 (2009年8月)	Effects of anti-TNF-alpha antibody infliximab in refractory entero-Behcet's disease.	Saito, K	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
日本内分泌学会雑誌 85 : 95-97 (2009年8月)	エチドロネートが異所性石灰化に著効し長期の有効性を認めた一例	森 博子	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
医学のあゆみ 230 : 811-816 (2009年8月)	免疫担当細胞を標的とした治療	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医学のあゆみ. 230 : 786-791 (2009年8月)	シグナル伝達分子を標的とした関節リウマチ治療 -新規抗リウマチ薬の可能性	山岡 邦宏	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
Rheumatology (Oxford). 48 : 1279-1282 (2009年8月)	Usefulness of initial histological features for stratifying Sjogren's syndrome responders to mizoribine therapy.	Nakayamada, S	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
呼吸 9 : 884-889 (2009年9月)	膠原病・リウマチ性疾患の生物学的製剤	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
日本アフェレシス学会雑誌. 28 : 218-223 (2009年9月)	関節リウマチに対する大量血球処理白血球除去療法	齋藤 和義	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
日本整形外科学会雑誌. 83 : 813-821 (2009年10月)	関節リウマチに対する生物学的製剤の臨床効果と作用機序	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
リウマチ科. 42 : 329-336 (2009年10月)	関節リウマチの寛解：クライテリアによってどのように違うのか？	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
FEBS Letters 584 : 61-66 (2009年11月)	Advanced glycation end products increase endothelial permeability through the RAGE/Rho signaling pathway.	Hirose, A	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
J Rheumatol 37(3) : 512-520 (2010年1月)	Tacrolimus, a calcineurin inhibitor overcomes treatment unresponsiveness mediated by P-glycoprotein on lymphocytes in refractory rheumatoid arthritis	Suzuki, K.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
MALARIA JOURNAL. 9(73) (2010年3月)	Suppressive effect of azithromycin on Plasmodium berghei mosquito stage development and apicoplast replication.	Shimizu, S.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科
日本心臓病学会誌 4 : 131-138 (2009年4月)	虚血性僧帽弁逆流： 外科治療の適応は？	尾辻 豊	循環器内科、腎臓内科

10件

20件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Cardiology53 : 240-247 (2009年4月)	Abnormal Tei index predicts poor left ventricular mass regression and survival after AVR in aortic atenosis patients	Otsuji, Y	循環器内科、腎臓内科
J Cardiol 53(2) : 188-195 (2009年4月)	Accuracy of measuring mitral annular velocity by 2D speckle tracking imaging	Haruki, N	循環器内科、腎臓内科
Clinical Nephrology 71(5) : 590-592 (2009年5月)	Hepatic angiosarcoma-a rare liver tumor in a hemodialysis patient	Tamura, M	循環器内科、腎臓内科
J Am Soc Echocardiogr 22 : 437-42 (2009年5月)	Comparayive diagnostic accuracy of multiplane and multislice three-dimensional dobutamine stress echocardiography in the diagnosis of coronary artery disease	Yoshitani, H	循環器内科、腎臓内科
Int J Cardiol 134 : 285-287 (2009年5月)	Serum soluble lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 correlates with oxidative stress markers in stable coronary artery disease	Ymasshita, K	循環器内科、腎臓内科
Current Cardiology Reports 11 : 225-230 (2009年5月)	Evaluation of left ventricular function using left ventricular twist and torsion parameters	Takeuchi, M	循環器内科、腎臓内科
J UOEH31 : 167-172 (2009年6月)	A case of familial spontaneous pneumothorax	Snoda, S	循環器内科、腎臓内科
Circulation Journal 73(6) : 986-993 (2009年6月)	Nitric Oxide Synthases and Cardiovascular Diseases	Tsutsui, M	循環器内科、腎臓内科
Eur J Echocardiogr 10 : 769-75 (2009年8月)	Overnight sleeping induced daily repetitive left ventricular systolic and diastolic dysfunction in obstructive sleep apnoeaquantitative assessment using tissue Doppler imaging	Haruki, N	循環器内科、腎臓内科
Circulation J 73 : 1651-1654 (2009年9月)	Age-Dependent Clinical Characteristics of Micturition Syncope	Kamezaki, F	循環器内科、腎臓内科

10件

30件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pacing Clin Electrophysiol (PACE) 32 : 1333-1335 (2009年10月)	Repetitive non-reentrant VA synchrony and pacemaker mediated tachycardia induced by AF suppression algorithm	Kohno, R	循環器内科、腎臓内科
Eur Heart J 30 : 2631-71 (2009年11月)	Guidelines for the Diagnosis and Management of Syncope (Version 2009)	Abe, H	循環器内科、腎臓内科
Eur J Echocardiogr 10 : 926-32 (2009年12月)	Subclinical left ventricular dysfunction in asymptomatic diabetic patients assessed by two-dimensional speckle tracking echocardiography	Takeuchi, M	循環器内科、腎臓内科
British Journal of Pharmacology 159(2) : 462-473 (2010年1月)	Effect of long-and short-term Treatments with pravastatin on diabetes mellitus and pancreatic fibrosis in the Otsuka-Long - Evans-Tokushima Fatty rat.	Yamamoto, M.	消化管内科、肝胆膵内科
Med Mol Morphol 43(1) : :13-18 (2010年3月)	Autophagy is involved in the elimination of intracellular inclusions, Mallory-Denk bodies, in hepatocytes.	Harada, M	消化管内科、肝胆膵内科
Inflamm Res 58 (4) : 192-197 (2009年4月)	Concentrations of $\alpha$ and $\beta$ -defensins in plasma of patients with inflammatory bowel disease	Mukae, H	呼吸器内科
感染症学雑誌 : 83-147 (2009年4月)	臨床検体における 16SrRNA 遺伝子解析と培養検査との比較検証 気管内挿管患者における気管支洗浄液について	川波 敏則	呼吸器内科
Intern Med 48 (10) : 827-830 (2009年5月)	Desquamative interstitial pneumonia (DIP) in a patient with rheumatoid arthritis Is DIP associated with autoimmune disorders?	Mukae, H.	呼吸器内科
Scand J Rheumatol 38(4) : 1-5 (2009年7月)	Association of distinctive clinical Subseys with myositis-specific Autoantibodies toward anti-155/14kD polypeptides, anti-14kD polypeptides, and anti-aminoacyl tRNA synthetases in patients with dermatomyositis of Japanese population a single-center, cross-sectional study	Mukae, H.	呼吸器内科

10件

39件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Radiol Extra 71(2) : e53-e55 (2009年8月)	A case of numerous atypical adenomatous hyperplasia diagnosed by a video-assisted thoracoscopic lung hiopsy	Mukae, H.	呼吸器内科
Intern Med 48 (15) : 1327-1331 (2009年8月)	Unique mutations of the cystic fibrosis transmbrane conductance regulator gene of three cases of cystic fibrosis in Nagasaki Japan	Mukae, H.	呼吸器内科
Intern Med 48 (17) : 1501-1507 (2009年9月)	Elevated levels of tenascin-C in patients with cryptogenic organizing pneumonia	Mukae, H.	呼吸器内科
Chest 136(5) : 1341-1347 (2009年11月)	Clinical differences between Interstitial lung disease associated with clinically amyopathic derematomyositis and classical dermatomyositis	Mukae, H	呼吸器内科
Pulm Pharmacol Ther 22(6) : 580-586 (2009年12月)	Azithromycin, clarithromycin and telithromycin inhibit MUC5AC induction by Chlamydothila pneumoniae in airway epithelial cells	Mukae, H.	呼吸器内科
Mod Physician 29(5) : 711-711 (2009年5月)	抗てんかん薬の選び方 —全般発作と部分発作の鑑別が重要である—	赤松 直樹	神経内科学
Mod Physician 29(6) : 897-897 (2009年6月)	難治性てんかんの手術治療	赤松 直樹	神経内科学
臨神経 49 : 267-270 (2009年6月)	小脳性運動失調をともなう孤発性片麻痺性片頭痛の1例	岩中行己男	神経内科学
Clin Neurosci 27(7) : 794-798 (2009年7月)	錐体路の検査	武智 詩子	神経内科学
日内会誌 98(9) : 195-202 (2009年9月)	てんかん治療—最新の進歩	辻 貞俊	神経内科学

10件

49件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Neurosci 27(11) : 1266-1267 (2009年11月)	てんかん発作後浮腫	赤松 直樹	神経内科学
臨神経 49(11) : 769-773 (2009年11月)	新しいてんかん分類と抗てんかん薬の使い方	辻 貞俊	神経内科学
臨神生 37(6) : 464-470 (2009年12月)	単発刺激の臨床応用	魚住 武則	神経内科学
臨神生 37(6) : 471-479 (2009年12月)	反復磁気刺激の治療への応用	武智 詩子	神経内科学
Neurology 74 (2) : 177-178 (2010年1月)	B-cell activating factor of the TNF family is upregulated in neuromyelitis optica	Okada, K.	神経内科学
臨脳波 52 (2) : 80-84 (2010年2月)	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) における臨床症状と筋電図所見	大成 圭子	神経内科学
医のあゆみ 232 (10) : 973-977 (2010年3月)	高齢者のてんかん一病態、診断、その特殊性	赤松 直樹	神経内科学
医のあゆみ 232 (10) : 947-948 (2010年3月)	てんかんの治療 Update-研究と臨床の最前線はじめに	辻 貞俊	神経内科学
臨床精神薬理 12(4) : 25-31 (2009年4月)	非定型抗精神病薬の難治性うつ病への適用: 血漿中脳由来神経栄養因子からの検討	吉村 玲児	神経・精神科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(3) : 499-502 (2009年4月)	Association analysis between the C-129G polymorphism in the promoter region of the adrenergic $\alpha$ 2A receptor gene and polydipsia in schizophrenia	Yamaguchi, W.	神経・精神科

10件

59件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Psychiatr Scand. 119(4) : 290-297 (2009年4月)	How many well vs. unwell days can you expect over 10 years, once you become depressed?	Yoshimura, R	神経・精神科
Schizophr Res. 110 : 200-201 (2009年5月)	MDR1 gene in tardive dyskinesia scale scores: comparison of strategies for quantitative trait haplotype analysis.	Shinkai, T	神経・精神科
臨床精神薬理 12(6) : 1075-1080 (2009年6月)	Risperidone 特効性注射製剤 (RLAI) の基礎と臨床効果・薬物動態	吉村 玲児	神経・精神科
精神科 14(6) : 497-502 (2009年6月)	せん妄の薬物療法の実際と適応外処方 の課題は	堀 輝	神経・精神科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(4) : 722-726 (2009年6月)	Higher plasma interleukin-6 (IL-6) level is associated with SSRI-or SNRI-refractory depression.	Yoshimura, R	神経・精神科
Schizophr Res. 112 : 192-193 (2009年7月)	Reduction of brain $\gamma$ -aminobutyric acid (GABA) concentrations in early-stage schizophrenia patients: 3T Proton MRS study	Goto, N	神経・精神科
Hum Psychopharmacol. 24(5) : 409-413 (2009年7月)	Serum levels of brain-derived neurotrophic factor in comorbidity of depression and alcohol dependence	Nakano, W.	神経・精神科
Hum Psychopharmacol. 24(6) : 489-494 (2009年8月)	Rapid response to paroxetine is associated with plasma paroxetine levels at 4 but not 8 weeks of treatment, and is independent of serotonin transporter promoter polymorphism in Japanese depressed patients	Yoshimura, R	神経・精神科
日本禁煙学会雑誌 4(4) : 104-108 (2009年8月)	統合失調症患者の禁煙支援	中野和歌子	神経・精神科

9件

68件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本アルコール精神 医学雑誌 16(1) : 19-26 (2009年8月)	うつ病とアルコール依存症との合併	中野和歌子	神経・精神科
臨床精神薬 12(8) : 1859-1868 (2009年8月)	寛解を目指したうつ病治療	中村 純	神経・精神科
精神神経学雑誌 111 (7) : 825-828 (2009年9月)	アルコールとうつ：カテコールアミンと 脳由来神経栄養因子からの検討	吉村 玲児	神経・精神科
Int J Ment Health Syst 3(1) :20-20 (2009年9月)	Attitude of young psychiatrists toward coercive measures in psychiatry: a case vignette study in Japan	Nakano, W	神経・精神科
PSYCHIATRIST13 : 69-72 (2009年9月)	見直される「修正型電気けいれん療法 (m-ECT)」	中村 純	神経・精神科
Child Adolesc Psychiatry Ment Heslth3 : 30-30 (2009年9月)	The Practice of child and adolescent psychiatry:a survey of early- career psychiatrists in Japan	Nakano, W.	神経・精神科
臨床精神医学 38 (10) 1521-1528 (2009年9月)	難治性うつ病に対する非定型抗精神病薬 の効果	上田 展久	神経・精神科
Psychiatry Clin Neurosci 63(5) : 701-702 (2009年10月)	Tricholliomania responding to low-dose fluvoxamine	Sugita, A	神経・精神科
World J Biol Psychiatry 4 : 741-745 (2009年10月)	Olanzapine orally disintegrating tablets(Zyprexa Zydis)rapidly improve excitement components in the acute phase of first-episode schizophrenic patients: an open-label prospective study.	Hori, H	神経・精神科
臨床精神薬理 12 (11) : 2303-2310 (2009年11月)	新規抗精神病薬は認知機能を改善させる か	堀 輝	神経・精神科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Schizophrenia Frontier10(4) : 68-73 (2009年11月)	興奮や易怒性のコントロールに困窮した 統合失調症の一例	香月あすか	神経・精神科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 33(8) : 1451-1453 (2009年11月)	Effects of antidepressants on plasma metabolites of nitric oxide in major depressive disorder: Comparison between milnacipran and paroxetine	Sugita, A.	神経・精神科
Asian Journal of Psychiatry2(4) : 154-155 (2009年12月)	Japan Young Psychiatrists Organization (JYPO) welcomes participants from overseas to the Course for Academic Development of Psychiatrists (CADP)	Nakano, W	神経・精神科
精神神経学雑誌 111(10) : 1214-1219 (2009年12月)	精神科卒後教育を精神科専門医制度に則 った後期臨床研修医の立場から考える	中野和歌子	神経・精神科
精神神経学雑誌 111(10) : 1246-1249 (2009年12月)	Postgraduate Psychiatric Training in Japan	中野和歌子	神経・精神科
Hum Psychopharmacol. 24(8 ) : 639-645 (2009年12月)	Associations between plasma levels of 3-methoxy-4- hydroxyphenylglycol (MHPG) and negative symptoms or cognitive impairments in early-stage schizophrenia	Goto, N	神経・精神科
Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol. 380(6) : 479-186 (2009年12月)	Opposite effects of milnacipran, a serotonin norepinephrine reuptake inhibitor, on the levels of nitric oxide and brain-derived neurotrophic factor in mouse brain cortex	Sugita, A.	神経・精神科
精神神経学雑誌 111(10) : 1225-1225 (2009年12月)	従来のストレート研修のメリット・デメ リット	中野和歌子	神経・精神科
精神神経学雑誌 111(10) : 1226-1233 (2009年12月)	「精神科医への道」再考	中野和歌子	神経・精神科

9件

87件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Psychopharmacol24. : 676-679 (2009年12月)	Lack of association of GPX1 and MnSOD genes with symptom severity and response to clozapine treatment in schizophrenia subjects.	Shinkai, T.	神経・精神科
Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol. 380(6) : 479-486 (2009年12月)	Opposite effects of milnacipran, a serotonin norepinephrine reuptake inhibitor, on the levels of nitric oxide and brain-derived neurotrophic factor in mouse brain cortex	Sugita, A	神経・精神科
Int J Pediatr Epub 274768 (2009年4月)	Fosfluconazole for antifungal prophylaxis in very low birth weight infants.	Takahashi, D.	小児科学
Eur J Pediatr168(6) : 745-747 (2009年6月)	Disseminated Bacillus Calmette-Guerin lymphadenitis in a Patient with gp91phox(-) chronic granulomatous disease 25 years after vaccination	Kusuhara, K.	小児科学
Pediatric Int51(3) : 321-325 (2009年6月)	.Effect of transfusion on the venous blood lactate level in very low-birthweight infants.	Takahashi, D	小児科学
J Perinat Med37(4) : 407-412 (2009年9月)	Effect of sitting position on respiratory status in preterm infants.	Shiraishi, M.	小児科学
日本小児救急医学会誌 8 : 334-337 (2009年12月)	脳波検査を契機に診断に至った急性プロチゾラム中毒の一男児例	市川 俊	小児科学
J Pediatr155 (6) : 829-833 (2009年12月)	Identification of severe combined immunodeficiency by T-cell receptor excision circles quantification using neonatal Guthrie cards.	Morinishi, Y..	小児科学
Cerebrovascular Diseases28 : 135-142 (2009年5月)	Multifaceted effects of selective inhibitor of phosphodiesterase III, cilostazol, for cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage in a dog model	Nishizawa, S.	脳神経外科学
Teh Spine Journal9(5) : e10-e13 (2009年5月)	Intrasyrix hemorrhage associated with hemangioblastoma in epiconus	Yamamoto, J.	脳神経外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児の脳神経 34 (3) : 255-260	当院における頭蓋顔面骨延長術の経験	高橋 麻由	脳神経外科学
Stroke40(7) : 2519-2525 (2009年7月)	Role of Interleukin-1 $\beta$ in early brain injury after subarachnoid hemorrhage in mice	Souzen, T	脳神経外科学
Neurological Surgery37(10) : 995-999 (2009年10月)	脳室腹腔短絡術12年後に生じた非外傷性緊張性気脳症の1例	出井 勝	脳神経外科学
Neurologia medico-chirurgica 40(19): 484-487 (2009年10月)	Efficacy of multi-staged surgery and adjuvant chemotherapy for successful treatment of atypical choroid plexus papilloma in an infant	Takahashi, M	脳神経外科学
Endocrine Journal56(9) : 1095-1101 (2009年12月)	Investigation into the efficacy and safety of octreotide LAR in Japanese patients with acromegaly : Shizuoka Study	Nishizawa, S.	脳神経外科学
整形・災害外科 52(6) : 793-796 (2009年5月)	血友病性膝関節症に併発した脛骨骨内偽腫瘍の1例	平澤 英幸	整形外科
Osteoporosis International20(5) : 731-736 (2009年5月)	Association of unipedal standing time and bone mineral density in community-dwelling Japanese women	Sakai, A	整形外科
整形・災害外科 52(7) : 923-927 (2009年6月)	脛骨骨幹端から骨端に進展した Brodie 骨膿瘍の1例	石原善三郎	整形外科
BONE44(6) : 1055-1062 (2009年6月)	The anabolic action of intermittent PTH in combination with cathepsin K Inhibitor or alendronate differs depending on the remodeling status in bone in ovariectomized mice.	Yamane, H	整形外科
整形・災害外科 52(8) : 1011-1016 (2009年7月)	生体内吸収性骨折合材を用いた上肢骨折の手術	酒井 昭典	整形外科

10件

107件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床整形外科 45(1) : 2-3 (2010年1月)	手術的に治療した腸骨稜裂離骨折に1例	宇都宮 啓	整形外科
臨床整形外科 45(1) : 5-8 (2010年1月)	慢性腰痛症の治療としての生活習慣指導	中村英一郎	整形外科
Journal of Bone Mineral Metabolism 28(1):42-48 (2010年1月)	Unipedal standing exercise and hip bone mineral density in postmenopausal women: a randomized controlled trial	Sakai, A.	整形外科
日本手の外科学会雑誌 53(2):203-207 (2010年2月)	橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキング プレート適正設置のためのデバイスの開 発	大茂 寿久	整形外科
整形・災害外科 53(3) : 261-265 (2010年3月)	特集: Dupuytren 拘縮の基礎と臨床 Dupuytren 拘縮に対する部分腱膜切除術 と創開放療法	大茂 寿久	整形外科
Orthopaedics 3(3) : 7-13 (2010年3月)	特集: 肩甲帯部痛の診療 頸肩腕症候群	酒井 昭典	整形外科
Dermato-Endocrinol ogy 1(1) : 58-59 (2009年4月)	Congenital woolly hair without P2RY5 mutation	Nakamura, M	皮膚科学
Eur J Dermatol 19(3) : 273-274 (2009年5月)	Tocilizumab-induced erythroderma	Nakamura, M	皮膚科学
Eur J Dermatol 19(3) : 262-263 (2009年5月)	A novel missense mutation in the PTCH1 gene in premature case of nevroid basal cell carcinoma syndrome	Nakamura, M	皮膚科学
Eur J Dermatol 19(3) : 263-264 (2009年5月)	Pseudolymphomatous folliculitis presenting with multiple nodules	Nakamura, M	皮膚科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Dermatol19(3) : 292-294 (2009年5月)	Drug-induced CD30+ T cell pseudolymphoma	Fukamachi, S.	皮膚科学
Eur Acad Dermatol Venereol.23(6) : 708-709 (2009年6月)	A novel missense mutation in the PAX3 gene in a case of Waardenburg syndrome type I	Nakamura, M	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol23(6) : 710-712 (2009年6月)	Severe muscle weakness to necessitate rehabilitation in a case of trichorhinophalangeal syndrome type II	Nakamura, M	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol23(6) : 737-738 (2009年6月)	'Nagashima-type' keratosis palmoplantaris in two siblings	Isoda, H	皮膚科学
Eur J Dermatol19(3) : 286-287 (2009年6月)	A missense mutation in exon 1 of the keratin 9 gene in a Japanese patient with Verner type" hereditary palmoplantar keratoderma"	Sakabe, J	皮膚科学
Acta Derm Venereol189(3) : 311-312 (2009年6月)	Lichen Spinulosus in an Alcoholic Patient	Kabashima, R	皮膚科学
Expert Rev Dermatol14(3) : 263-270 (2009年6月)	Photoallergy	Tokura, Y.	皮膚科学
J Dermatol Sci 55(1) : 34-39 (2009年7月)	Induction of eosinophil-infiltrating drug photoallergy in mice	Nishio, D	皮膚科学
J Am Acad Dermatol61(1) : 163-164 (2009年7月)	Loss of tumor cell CCR4 expression upon leukemic change in adult T-cell leukemia/lymphoma	Sugita, K.	皮膚科学
J Dermatol36(7) : 383-391 (2009年7月)	Effects of oral antibiotic roxithromycin on quality of life in acne patients	Kobayashi, M	皮膚科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Dermatol36 (9) : 515-517 (2009年9月)	Mixed tumor of the skin arising on the auricle	Ine, K.	皮膚科学
J Invest Dermatol129(8) : 2077-2078 (2009年9月)	The localization of label-retaining cells in eccrine glands	Nakamura, M	皮膚科学
Skin Cancer24(2) : 206-211 (2009年9月)	ATLL の分子学的特性	中村 元信	皮膚科学
Acta Derm Venereol189(6) : 618-622 (2009年9月)	Drug-induced Papuloerythroderma: Analysis of T-cell Populations and a Literature Review	Sugita, K	皮膚科学
Clin Exper Dermatol134(7) : e282-e284 (2009年10月)	Possible involvement of T lymphocytes in the pathogenesis of Nagashima-type keratosis palmoplantaris	Sakabe, J	皮膚科学
Br J Dermatol161(4) : 968-970 (2009年10月)	A novel missense mutation in tumour necrosis factor receptor superfamily 1A(TNFRSF1A) gene found in tumour necrosis factor receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) manifesting adult-onset Still disease-like skin eruptions: report of a case and review of the Japanese patients	Nakamura, M	皮膚科学
Clin Exp Dermatol. 34(7) : e322-e324 (2009年10月)	Leukaemic mycosis fungoides in an atomic bomb survivor with lung and renal cancers.	Shimauchi, T.	皮膚科学
Eur J Dermatol19(6) : 626-628 (2009年12月)	Kimura's disease presenting with a giant suspensory tumor and associated with membranoproliferative glomerulonephritis.	Kabashima, R	皮膚科学
日本大腸肛門病会誌 62(5) : 334-339 (2009年5月)	潰瘍性大腸炎手術後の炎症性腸疾患関連関節炎に対するメトトレキサートの使用経験	平田 敬治	消化器・内分泌外科

9件

136件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外科系連合学会誌 34(4) : 549-555 (2009年8月)	当科における色素法単独による乳癌センチネルリンパ節生検 feasibility study の成績	勝木 健文	消化器・内分泌外科
胆道 23(4) : 610-614 (2009年10月)	当科における総胆管結石に対する腹腔鏡下総胆管切石術の検討	柴尾 和徳	消化器・内分泌外科
Asian J Surg 32(2) : 76-80 (2009年4月)	Clinicopathological Characteristics of Invasive Lobular Carcinoma of the Breast.	Hanagiri, T	呼吸器・胸部外科
Lung Cancer 64(3) : 314-318 (2009年6月)	Prospective phase II study of gefitinib in non-small cell lung cancer with epidermal growth factor receptor gene mutations.	Sugio, K	呼吸器・胸部外科
Lung Cancer 65(1) : 91-97 (2009年7月)	Clinical significance of HLA class I alleles on postoperative prognosis of lung cancer patients in Japan.	Nagata, Y.	呼吸器・胸部外科
Surg Today 39(7) : 598-602 (2009年7月)	Gefitinib and a ventriculo-peritoneal shunt to manage carcinomatous meningitis from non-small-cell lung cancer: report of two cases.	So, T	呼吸器・胸部外科
Cancer Sci 100(7) : 1326-1334 (2009年7月)	Malignant mesothelioma-associated antigens recognized by tumor-infiltrating B cells and the clinical significance of the antibody titers.	Shigematsu, Y.	呼吸器・胸部外科
Cancer 115(15) : 3489-3500 (2009年8月)	Discrimination of multiple primary lung cancers from intrapulmonary metastasis based on the expression of four cancer-related proteins.	Ono, K.	呼吸器・胸部外科
J Thorac Oncol 4(8) : 964-968 (2009年8月)	Results of Surgical Treatment for Patients with Small Cell Lung Cancer	Hanagiri, T	呼吸器・胸部外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg 57(9) : 449-457 (2009年9月)	Lung cancer-associated tumor antigens and the present status of immunotherapy against non-small-cell lung cancer.	Yasumoto, K	呼吸器・胸部外科

10件

146件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gen Thorac Cardiovasc Surg57(11) : 622-624 (2009年11月)	Congenital tracheoesophageal fistula in an elderly patient with thoracic empyema.	Yasuda, M	呼吸器・胸部外 科
Biotherapy23(6) : 401-407 (2009年11月)	癌免疫療法ー最近の話題からー	花桐 武志	呼吸器・胸部外 科
日呼外会誌 23 (7) : 986-991 (2009年11月)	胸膜肺全摘後にネフローゼ症候群の改善 を認めた悪性胸膜中皮腫の一例	近石 泰弘	呼吸器・胸部外 科
Cancer Sci 101(1) : 46-53 (2010年1月)	Identification of ribosomal protein L19 as a novel tumor antigen recognized by Autologous cytotoxic T lymphocytes in lung adenocarcinoma	Kuroda, K.	呼吸器・胸部外 科
Int J Surg 8(1) : 39-43 (2010年1月)	Sleeve lobectomy for patients with non-small cell lung cancer	Hanagiri, T.	呼吸器・胸部外 科
Lung Cancer 68(1) : 105-110 (2010年1月)	Clinical significance of cancer /testis antigens expression in patients with non-small cell lung cancer	Shigematsu, Y	呼吸器・胸部外 科
胸部外科 63 (3) : 216-219 (2010年3月)	長期生存が得られた肺癌術後肋骨転移に 対する切除	小野 憲司	呼吸器・胸部外 科
形成外科 52 : 895-901 (2009年8月)	消毒と洗浄の最近の知見	安田 浩	形成外科
The Japanese Journal of Antibiotics62(2) : 116-126 (2009年4月)	尿路生殖器を中心とする各種臨床分離株 に対する Tebipenem の抗菌力	村谷 哲郎	泌尿器科学
日本泌尿器科学会雑 誌 100(4) : np1-np2-27 (2009年5月)	泌尿器科領域における感染制御ガイドラ イン	松本 哲朗	泌尿器科学

10件

156件



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
西日本泌尿器科 71(5) : 192-195 (2009年5月)	難治性尿路上皮癌および精巣腫瘍に対する化学療法 MVAC療法後の進行性尿路上皮癌に対するPaclitaxel+Gemcitabine併用療法の検討	松本 博臣	泌尿器科学
日本化学療法学会雑誌 57 : 34-46 (2009年7月)	複雑性尿路感染症に対する levofloxacin 500mg1日1回投与の臨床効果 7日および14日間投与による検討	松本 哲朗	泌尿器科学
臨床検査 53(11) : 1343-1347 (2009年10月)	微生物別の種類別にみた施設内感染制御細菌 ESBL産生グラム陰性桿菌	庄 武彦	泌尿器科学
Antimicrobial Agents and Chemotherapy 53(11) : 4938-4939 (2009年11月)	Antimicrobial susceptibilities of Mycoplasma genitalium strains examined by broth dilution and quantitative PCR	Hamasuna, R	泌尿器科学
日本化学療法学会雑誌 57(6) : 511-525 (2009年11月)	尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン - 第1版 -	松本 哲朗	泌尿器科学
Br J Ophthalmol 93(4) : 557-558 (2009年4月)	Trabecular meshwork in neovascular glaucoma eyes after the intravitreal injection of bevacizumab.	Kubota, T	眼科学
眼科 51(6) : 765-772 (2009年6月)	【眼科における先天異常】緑内障	田原 昭彦	眼科学
人間工学 45 : 170-171 (2009年6月)	焦点調節機能からみた立体ディスプレイの両眼視差許容範囲	田原 昭彦	眼科学
Investigative Ophthalmology & Visual Science 50(6) : 2777-2784 (2009年7月)	Nipradilol and Timolol Induce Foxo3a and Peroxiredoxin 2 Expression and Protect Trabecular Meshwork Cells from Oxidative Stress	Miyamoto, N.	眼科学
臨床眼科 63(7) : 1075-1079 (2009年7月)	40歳以下に発症した緑内障の臨床的特徴に関する検討	渡部 晃久	眼科学

10件

166件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科臨床紀要 2 (9) : 849-852 (2009年9月)	黄斑上膜に対する硝子体手術後に網膜色素上皮裂孔を生じた1例	尾崎 幹大	眼科学
臨床眼科 増刊号 (11) 緑内障診療の グレーゾーンを越えて 1. 診療編 2. 隅角 63(11) : 48-51 (2009年10月)	発達緑内障の隅角所見	久保田敏昭	眼科学
RETINA 30(3) : 468-472 (2010年3月)	Histology of Fibrovascular Membranes of Proliferative Diabetic Retinopathy After Intravitreal Injection of bevacizumab.	Kubota, T.	眼科学
Ophthalmic Surg Lasers Imaging 2010.3(Online Only) : 1-4 (2010年3月)	Amniotic Membrane Transplantation for Repair of Glaucoma Filtering Blebs with Scleral Perforation.	Okada, H	眼科学
Eur Arch Otorhinolaryngol 266 (8) : 1279-1283 (2009年8月)	Drainage of the tracheal blind pouch created by laryngotracheal separation	Suzuki, H	耳鼻咽喉科学
耳喉頭頸 81(12) : 865-868 (2009年11月)	蝸牛神経低形成が原因と考えられた小児感音難聴の1例	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科学
日鼻誌 48(4) : 373-377 (2009年11月)	FDG-PET で検出された上顎洞円柱上皮性乳頭腫例	宇高 毅	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 103 (2) : 145-149 (2010年2月)	視力障害を伴う術後性副鼻腔嚢胞患者の視力予後	大久保淳一	耳鼻咽喉科学
耳喉頭頸 82 (2) : 99-103 (2010年2月)	喉頭病変の診断に苦慮した腸管ベージェット病の1例	寶地 信介	耳鼻咽喉科学
耳喉頭頸 82 (2) : 119-124 (2010年2月)	頭頸部 MALT リンパ腫の症例	門川 洋平	耳鼻咽喉科学

10件

176件

誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻臨床 103 (2) : 145-149 (2010年2月)	視力障害を伴う術後性副鼻腔嚢胞患者の視力予後	大久保淳一	耳鼻咽喉科学
INNERVISION24(8) : 82-85 (2009年7月)	3T時代の造影MRI その適応と限界 1.5Tとの比較も含めて 骨軟部 骨軟部 腫瘍および滑膜疾患の造影 3T MRI	青木 隆敏	放射線科学
INNERVISION24(9) : 24-26 (2009年8月)	【Step up MRI 2009 前進!革新!MRI】こ こまできた高磁場磁化率強調画像 脳神 経領域磁化率強調画像の応用による新た な神経解剖の描出	掛田 伸吾	放射線科学
断層映像研究会雑誌 36(2): 78-81 (2009年8月)	【EBMの実践と画像診断・IVR研究のスト ラテジー】 EBMと画像診断ガイドライン	興梠 征典	放射線科学
画像診断 29(12) : 1456-1457 (2009年12月)	膝関節のMRI	青木 隆敏	放射線科学
麻酔 58(4) : 453-455 (2009年4月)	頸部硬膜外カテーテル留置に関連した硬 膜外膿瘍	片岡 和史	麻酔科学
日本臨床麻酔学会誌 29(5): 730-742 (2009年9月)	ピットフォール 一気をつけたいロピバ カインの副作用・留意点ー	佐多 竹良	麻酔科学
Journal of Anesthesia23(4) : 597-600 (2009年11月)	Considerations for epidural anesthesia in a patient with type 1 von Willebrand disease	Hara, K	麻酔科学
麻酔 58 (12) : 1512-1515 (2009年12月)	ミダゾラム、フェンタニル、ケタミンに よる硬膜外穿刺時の疼痛緩和効果の検討	寺田忠徳	麻酔科学
Anesthesia & Analgesia 110(2) : 615-621 (2010年2月)	The antinociceptive effect of Intrathecal administration of glycine transporter-2 inhibitor ALX1393 in a rat acute pain model	Haranishi, Y.	麻酔科学

10件

186件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
麻酔 59 (2) : 246-248 (2010年2月)	レノックス・ガストナー症候群小児の全身 麻酔経験	柴山愛子	麻酔科学
The Journal Trauma 68(2) : 401-408 (2010年2月)	Lidocaine enhances apoptosis and suppresses mitochondrial-functions of human neutrophil in vitro	Kawasaki , C	麻酔科学
J UOEH31 (2) : 207-218 (2009年6月)	歩行支援ロボットとその臨床効果	和田 太	リハビリテーシ ョン科
臨床理学療法研究 26 : 15-18 (2009年7月)	嚥下障害のリスクを有する患者における 咳嗽力と呼吸機能との関係	和田 太	リハビリテーシ ョン科
J UOEH31 (4) : 359-364 (2009年9月)	多職種による退院前訪問指導を実施した がん患者2症例 200909 —理学療法士の視点から—	蜂須賀研二	リハビリテーシ ョン科
J UOEH31 (3) : 259-263 (2009年9月)	A walker with a device of partial suspension for patients with gait disturbance: body weight supported walker.	Makino, K.	リハビリテーシ ョン科
Disabil Rehabil 31(23) : 1902-1906 (2009年11月)	Characteristisc of disabilities in patients with subacute myelo-optico-neuropathy living at home:satisfaction in daily life and short form36	Takahashi, M	リハビリテーシ ョン科
J Rehabil Med 42(3) : 254-258 (2010年3月)	Determinants of early return to work after stroke in Japan	Saeki, s.	リハビリテーシ ョン科
産業医科大学雑誌 31(2) : 181-193 (2009年5月)	日本における子宮頸がん検診の現状と課 題	松浦 祐介	産婦人科学
日本臨床細胞学会雑 誌 48(3) : 91-96 (2009年5月)	がん検診受信歴のある浸潤子宮頸癌症例 の検討	松浦 祐介	産婦人科学

10件

196件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Life Science84 : 796-804 (2009年6月)	Amphiregulin regulates the production of human chorionic gonadotropin in trophoblast	Hachisuga, T	産婦人科学
J. Obstet. Gynaecol. Res. 35(4) : 782-786 (2009年8月)	The efficacy of preoperative hormonal therapy before laparoscopic cystectomy of ovarian endometriomas	Hachisuga, T	産婦人科学
Int J Gynecol cancer 19(6) : 1052-1056 (2009年8月)	Monitoring of Endometrial K-ras Mutation in Tamoxifen-Treated Patients with Breast Cancer	Hachisuga, T	産婦人科学
Int J Gynecol cancer : 1052-1056 (2009年8月)	Monitoring of Endometrial K-ras Mutation in Tamoxifen-Treated Patients with Breast Cancer	Hachisuga, T	産婦人科学
臨産 63(9) : 1123 (2009年9月)	ベセスダシステムへの変更	柏村 正道	産婦人科学
日本婦人科腫瘍学雑誌 27(4) : 518-523 (2009年10月)	婦人科悪性腫瘍脳転移症例に対するサイバーナイフの使用経験	北島 光泰	産婦人科学
日本産科婦人科学会雑誌 61(10) : 475-528 (2009年10月)	子宮内膜症と悪性腫瘍	土岐 尚之	産婦人科学
Jornal of Opioid Management 5(6) : 379-382 (2009年11月)	The use of opioids in a pregnant woman with lumbar disc herniation: A case report	Matsumoto, E	産婦人科学
J. Obstet. Gynaecol. Res. 35(6) : 1129-1131 (2009年12月)	Prenatal spontaneous disruption of the dividing membrane in monochorionic diamniotic twins detected at the time of fetoscopic laser photocoagulation	Yoshimura, K	産婦人科学
診断病理 26(4) : 238-241 (2009年10月)	子宮平滑筋肉腫の転移と鑑別を要した上顎原発悪性グロムス腫瘍の1例	中村 昭一	歯科・口腔外科

10件

206件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔外科学会雑誌 55(12) : 622-628 (2009年12月)	口腔扁平上皮癌 StageI, II 症例に対する 予防的頸部郭清の検討	平島 惣一	歯科・口腔外科
Haematologica 94(8) : 1041-1043 (2009年8月)	Diagnostic utility of flow cytometry in low-grade myelodysplastic syndromes	塚田 順一	化学療法センター・血液科
Journal European of Haematology 84(5) : 391-397 (2010年1月)	THP-COP regimen for the treatment of peripheral T-cell lymphoma and adult T-cell leukemia / lymphoma	塚田 順一	化学療法センター・血液科
日本産業衛生学会雑誌 51(3) : 35-40 (2009年5月)	産業保健と救急医療のかかわり	二瓶 俊一	救急・集中治療部
臨床麻酔 33(10) : 1649-1654 (2009年10月)	頸椎疾患がある症例における安全で愛護 的な気管挿管法	寺田 忠徳	救急・集中治療部
麻酔 58(12) : 1512-1515 (2009年12月)	ミダゾラム, フェンタニル, ケタミンに よる硬膜外穿刺時の疼痛緩和効果の検討	寺田 忠徳	救急・集中治療部
Life Sciences84(21) : 725-731 (2009年5月)	Fluvastatin attenuates IGF-1-induced ERK1/2 activation and cell proliferation by mevalonic acid depletion in human mesangial cells	Shibata, T.	腎センター
Clin Nephrol 71(5) : 590-592 (2009年5月)	Hepatic angiosarcoma - a rare liver tumor in a hemodialysis patient	松本 美香	腎センター
Therapeutic Res 30 : 1989-1994 (2009年12月)	中高度腎機能障害合併高血圧症における 長時間作用型 Ca 拮抗薬アゼルニジピンの 効果	宮崎美枝子	腎センター
Clin Nephrol 73(2) : 139-146 (2010年2月)	Renoprotective effects of telmisartan in patients with advanced chronic kidney disease	徳永 昌樹	腎センター

10件

216件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World Journal of Gastroenterology 15(38) : 4794-4798 (2009年10月)	Long-term treatment with proton pump inhibitor is associated with undesired weight gain.	Yoshikawa, I.	内視鏡部
臨床病理 58(3) : 211-215 (2010年3月)	高齢者におけるリウマイド因子の陽性頻度に関する検討	早原 千恵	臨床検査・輸血部
日本臨床検査自動学会会誌 35(3) : 332-332 (2010年3月)	ラテックス凝集免疫比濁法による新規リウマイド因子測定試薬の評価	池田 勝義	臨床検査・輸血部
放射線治療研究会雑誌 22(1) : 79-84 (2009年11月)	放射線治療機器管理における医療法ならびに診療報酬改正の概要と具体的な対応	吉浦 隆雄	放射線部
日本放射線技術学会 65(10) : 1391-1399 (2009年10月)	診療用X線撮影システムおよびCRシステムにおける簡便な始業点検プログラムの評価	藤本 啓司	放射線部
Journal of Knowledge Management Practice 10(2) (2009年6月)	Translating Tacit Medical Knowledge into Explicit Knowledge	Iwai, s	病理部
産業医科大学雑誌 31(2) : 207-218 (2009年6月)	歩行支援ロボットの紹介とその臨床効果	賀好 宏明	リハビリテーション部
整形・災害外科 52(11) : 1453-1457 (2009年11月)	人工股関節全置換術後の片脚立位獲得のための在院日数と影響因子	賀好 宏明	リハビリテーション部
J UOEH 31(4) : 359-364 (2009年12月)	多臓腫による退院前訪問指導を実施したがん患者2症例—理学療法士の視点から—	久原 聡志	リハビリテーション部
義肢装具学会雑誌 26(1) : 43-45 (2010年1月)	ソケット適合に難渋した強皮症を有する下腿切断の1症例	賀好 宏明	リハビリテーション部

10件  
226件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
理学療法ジャーナル 44(2):137-141 (2010年2月)	上腕骨外科頸骨折8年後に全人工肩関節置換術を受けた症例	賀好 宏明	リハビリテーション部
産業医科大学雑誌 31(3):265-279 (2009年9月)	独立成分分析を用いたVDT作業時の疲労関連信号抽出方法の検討	八谷百合子	健康管理センター
日本公衛誌 56(4) :271-274 (2009年4月)	心理社会的要因の測定(1)	堤 明純	産業医実務研修センター
産業ストレス研究 16(4):191-193 (2009年4月)	心の健康づくり計画と労働安全衛生マネジメントシステム	森 晃爾	産業医実務研修センター
JOEM51(5) :554-563 (2009年5月)	Participatory Intervention for Workplace Improvements on Mental Health and Job Performance Among Blue-Collar Workers:	Tsutsumi, A.	産業医実務研修センター
日本公衛誌 56(5) :338-340 (2009年5月)	心理社会的要因の測定(2)	堤 明純	産業医実務研修センター
日本公衛誌 56(7) :485-488 (2009年7月)	心理社会的要因の測定(4)	堤 明純	産業医実務研修センター
日本公衆衛生雑誌 56(8):535-538 (2009年8月)	心理社会的要因の測定(5)	堤 明純	産業医実務研修センター
日本公衛誌 36(9) :688-691 (2009年9月)	心理社会的要因の測定(6)	堤 明純	産業医実務研修センター
産業衛生学雑誌 51(5) :49-59 (2009年9月)	小規模事業場において良好実践を行っている事業者の産業保健ニーズに関する質的調査	森 晃爾	産業医実務研修センター

10件

236件



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産業ストレス研究 16(4) : 211-216 (2009年10月)	WHOによる世界の職場のメンタルヘルスガイドライン	堤 明純	産業医実務研修センター
日本公衛誌 56(6) : 422-425 (2009年6月)	心理社会的要因の測定(3)	堤 明純	産業医実務研修センター
Sleep Medicine10 : 1112-1117 (2009年12月)	Psychosocial job characteristics and insomnia:A prospective cohort study using the Demand-Control-Support(DCS) and Effort-Reward Imbalance(ERI) job stress models	Tsutsumi, A.	産業医実務研修センター

3件

239件

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

(平成 22 年 10 月 1 日現在)

管理責任者氏名	病 院 長 中村 利孝
管理担当者氏名	医療情報部長 林田 賢史、放射線部長 興梠 征典 看護部長 小竹 友子、薬剤部長 高橋 浩二郎 病院管理課長 前田 良児、医事課長 辻塚 勲

		保管場所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病 歴 室 薬 剤 部 放 射 線 部 看 護 部 各診療科外来 病院管理課	月別に電子カルテ及びそれぞれの部署にてファイル形式において、管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	年度毎に電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	高度の医療の提供の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医 事 課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項に掲げる体制の確保の状況	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部及び病院業務課	年度毎に電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部及び病院業務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部及び病院業務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部及び病院業務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部及び病院業務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部及び病院業務課	
	医療に係る安全管理を行う部門尾設置状況	医療安全管理部及び病院業務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部及び病院業務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部及び病院業務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部及び病院業務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部及び病院業務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

(平成 22 年 10 月 1 日現在)

閲覧責任者氏名	病院事務部長 西岡 隼人
閲覧担当者氏名	病院管理課長 前田 良児, 病院管理課長代理 田中 和寿
閲覧の求めに応じる場所	応接室兼診療情報等閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績 (平成 21 年度分)

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

(平成 21 年度分)

紹介率	81.4%	算定期間	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
算出根拠	A: 紹介患者の数	14,239 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,013 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,982 人	
	D: 初診の患者の数	22,188 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をB、Dの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれ延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方 安全管理のための委員会に関する基本的事項等	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 28 回
(医療安全対策委員会12回、医療事故防止委員会16回)	
・ 活動の主な内容： ① 医療安全対策の検討に関すること。 ② 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること。 ③ 医療安全対策並びに医療事故防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 29 回
・ 研修の主な内容： ① 医療安全対策に関すること。 ② 医療事故防止に関すること。 ③ 医薬品安全使用に関すること。 ④ 医療機器安全使用に関すること。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 持参薬管理アンケート調査⇒持参薬の運用 「原則院内処方に切り替える。ただし、条件付きで持参薬も運用する」 ② 血栓予防策としての間歇性空気圧迫装置は、AV インパルスタイプから SCD に変更する⇒碎石位によるコンパートメント症候群の防止のため ③ インシデントアクシデントシステムの変更 ④ 病理解剖の説明文書と同意書の見直し作成 ⑤ 新規採用者の研修会(第 2 木曜日)開催 ⑥ 医療機器安全管理ワーキング設置 ⑦ 医薬品安全管理ワーキング設置 ⑧ CV ポートの取り扱いのマニュアル作成 ⑨ 医療安全対策マニュアルの整備 ⑩ ポケット医療安全マニュアル(第 5 版)の発行 ⑪ 処方オーダー時のクリックミス防止：薬効、小児、成人など表示する ⑫ アレルギー画面の検討要望中 ⑬ 全身麻酔による手術室退出時の携帯用パルスオキシメーターを装着する ⑭ 中止薬剤の運用 ⑮ ピクトーザ皮下注(ヒトGLP-1アナログ製剤)の運用 ⑯ 弾性ストッキングの正しい使用方法の啓発 ⑰ 医療事故に関与した職員(部署)への支援についてマニュアル作成	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 1名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 1名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員：</p> <p>医療安全管理部  専任 ( 1 ) 名 兼任 ( 5 ) 名  ( 専任：医療安全管理者 (1名)、兼任：部長 (1名)、部員 (1名)、  医薬品安全管理責任者 (1名)、医療機器安全管理者 (1名)、看護師 (1名) )</p> <p>感染制御部  専任 ( 1 ) 名 兼任 ( 8 ) 名  ( 専任：病院感染対策者 (1名)、兼任：部長 (1名)、感染制御担当医師 (2名)  感染制御担当職員 (4名)、部員 (1名) )</p> <p>※医療安全対策にかかる事務部門：病院事務部病院業務課 (4名)</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 委員会で用いられる資料の作成に関すること。</li> <li>② 医療事故及び病院感染に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。</li> <li>③ 患者や家族への説明など医療事故及び病院感染発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。</li> <li>④ 医療事故及び病院感染の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関すること。</li> <li>⑤ 医薬品に係る安全管理及び使用に関すること。</li> <li>⑥ 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関すること。</li> <li>⑦ 医療安全対策に係る連絡調整に関すること。</li> <li>⑧ その他医療安全対策の推進に関すること。</li> </ol>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>本院では、医療に係る安全管理の指針と一体的に策定している安全管理に関する基本的考え方</li><li>安全管理のための委員会に関する基本的事項等</li></ul></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 26回
(医療安全対策委員会12回、病院感染防止委員会14回) <ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 医療安全対策の検討及び研究</li><li>② 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関すること</li><li>③ 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関すること</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>新型インフルエンザへの対応について</li><li>VRE感染対策について</li><li>新型インフルエンザについて、当院のVREとインフルエンザの現状について</li><li>災害拠点病院としての役割災害拠点病院としての役割</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 新型インフルエンザ対策</li><li>② VRE院内感染対策</li><li>③ 感染症診察処置室開設</li></ul></li></ul> (有)・無	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 輸血と危険薬について</li><li>② 薬剤アレルギーとその医療安全対策</li><li>③ 麻薬管理</li><li>④ インスリンの安全管理</li><li>⑤ 薬剤エラー（回避できた事例と回避できなかった事例）</li><li>⑥ 安全な薬物治療のために 一当院の取り組みと薬剤エラーの事例ー</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</li><li>・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 医薬品の採用</li><li>② 医薬品の購入管理</li><li>③ 医薬品の管理</li><li>④ 与薬指示・調剤</li><li>⑤ 患者に対する与薬や服薬指導</li><li>⑥ 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い（収集、提供）</li><li>⑦ 他施設との連携</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 薬剤師による処方への疑義照会</li><li>② 薬剤師による病棟及び外来の院内ラウンドの実施</li><li>③ インスリン・スライディング・スケールの院内標準化</li><li>④ 危険薬の定義と危険薬のリスト作成</li><li>⑤ 医薬品安全使用のための業務手順チェックリストの作成</li><li>⑥ 持参薬の鑑定と初回面談</li><li>⑦ 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導</li></ul></li></ul>	



(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 42回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>①輸液ポンプとシリンジポンプ</li><li>②人工呼吸器</li><li>③酸素療法</li><li>④除細動</li><li>⑤補助循環装置</li><li>⑥心電図</li><li>⑦閉鎖式保育器</li><li>⑧血液浄化装置</li><li>⑨換気補助装置</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( 有・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>①人工心肺装置及び補助循環装置</li><li>②血液浄化装置</li><li>③人工呼吸器</li><li>④除細動装置</li><li>⑤閉鎖式保育器</li><li>⑥診療用高エネルギー放射線装置</li><li>⑦診療用放射線照射装置</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>①医療機器安全管理ワーキングの設置</li><li>②医療機器に関する情報の収集</li><li>③医療安全情報により院内に医療事故等の情報を提供し注意喚起を行った。</li><li>④医療機器管理システムの一部の情報を院内WEBにて閲覧可能なシステムの構築</li></ul></li></ul>	